

子育て支援グループ

■構成メンバー

石川謙二、井上良純、福本悦子、油田千鳥、田岡陽子、千草篤磨、澤田裕子、浦田宗昭、水谷孝子

■開催日程と内容

8月5日 メンバー自己紹介・リーダー決め
・アドラー支援者ワークについて
9月10日 事前ワークについて
アドラー心理学「親が変わる・子どもが変わる・それが出発点」
9月16日 支援者事前ワークショップ
9月22日 当日企画に「親が変わる・子どもが変わる・それが出発点」の詳細きめ
10月20日 子育て支援グループ企画
「語り合おう子どもの本音、親の本音」詳細決め
11月14日 子育て支援グループ企画
「語り合おう子どもの本音、親の本音」当日タイムテーブル・進行・参加者確認・準備物の確認

子どもの育ちにとって、子どもの周りにいる大人の有り様（権利意識）が大きく影響するということに共感して、このグループは「子どもの育ちにとって大きく影響のある、大人の権利意識を高める」ことを目的として始まった。グループ会は遠方のメンバーの他は毎回殆どのメンバーが出席し、子どもの人権をめぐる様々な角度から熱い意見交換で盛り上がった。

当日の企画は、メンバーの澤田さんがアドラー心理学育児のすすめとして『親が変わる教師が変わる それが出発点』のワークショップを提出しており、その後グループからの声かけにより、体験ひろば☆こどもスペース四日市より『親子が共に育つ保育プログラムプレイセンター』の遊びの現場と実践発表が出された。

その後試行錯誤の末、グループのメンバーから『語り合おう 子どもの本音 親の本音』が提案され、後半はその企画を練り準備することに費やされた。

また9月には『親が変わる・・・』のワークショップを実行委員に体験してもらう企画を提案し、実行委員19名が参加し体験してもらうことが出来た。

子どもの参加・参画グループ

■構成メンバー

山根一枝、田上稔、鈴木英文、園田雅司、別保和春、谷口美子、釜谷恵子、嶋かをり

■開催日程と内容

グループ会
①7月29日②8月22日
③9月10日④9月20日⑤10月9日
⑥10月23日⑦11月4日
⑧11月17日⑨11月22日

◎「子どもの広場」

11月24日（月・振休）

「子どもの広場」

イベント情報コーナー・ミニステージ・研修室C

事前参加申込み数 126人

全体会開催 11月1日（土）

参画数 13

団体・個人 （25人）

子どもが主体者になって参画する「広場」の企画。子どものあるがままの姿を大人が信じ、子どもにまかせることについてグループ会としてどう考えるか話し合いを重ね、実行委員会を通して子どもたちに発信した。当日子どもたちが自分で考え、自分で決定し行動する姿から、子どもが自分で自分の権利をつかんだ事を実感できた。

◎「子どもサミット」

11月23日（日）15:00

参加数 347人

話し合い

①②8月24日③9月16日

④10月17日⑤11月9日

⑥⑦11月23日

パネラー 4人

子どもの人権ファシリテーター 浜田進士

4回の話し合いを重ねながら自分が感じた権利について、自分を通した意見を舞台から会場に発信した。パネラーの自己開示された発信が会場の子どもの心に届き、たくさんの子どもたちから自分発信があった。サミットを通し子ども自身が自分の権利について身近に感じる機会になったと思われる。又、参加者にとって「子どもサミット」は、翌日のエンパワメント・ワークショップなどユース企画への参加導入になった。

エンパワメントグループ

■構成メンバー

志治優美、高木文子、堀内千春、市川千鶴子、西村治美、外岡博明、森直樹、村林真哉、柳本つとむ、大門公子、秋山則子、高草環

■開催日程と内容

7月31日、8月20日、9月11日

まず、グループの目的を『エンパワメントをメジャーにしていくこと』とし、メンバーそれぞれが、自らのエンパワメントの体験を出し合った。様々な体験を言葉にして人に話すことで共感を得て、自身の内面に持っていたが気づけなかった力に気づくことがある。エンパワメントには、きっかけと支援者が必要である。子どもの権利条約フォーラムの当日は、「エンパワメント体験」のチャンスを提供し支援するワークショップをいくつか行うこととし、子ども自身が主催するワークショップが開催できるように働きかけをしようということになった。

図らずも3団体が、小学生が小学生に、ユースが小学生に、ユースがユースに、ユースが大人に…というように、子どもたちが、事前に何度も集まり、話し合い、組み立てを考え試行しながら当日に臨んだ。大人のサポートは要らない、とファシリテートした子どもたち自身が、「相手の気持ちに気づくことの大切さ」など、参加者以上に得ることが多かったようだ。また、この機会に他のワークショップを行っている団体やグループに参加を呼びかけたり、プログラム開発や、新しい手法を試す場にしたい思いもあったが実現には至らなかった。

声グループ

■構成メンバー

大窪久美子、福井きわ子、宮川一夫、山本佳子、前田宏樹、増田和正、奥田和男、落合泰子、平澤田代

■開催日程と内容

グループ会

- ① 7月29日 ② 8月28日 ③ 9月11日
④ 9月26日 ⑤ 10月6日 ⑥ 10月27日
⑦ 11月4日、5日、7日（入力日）
⑧ 11月10日 ⑨ 11月15日 ⑩ 11月21日

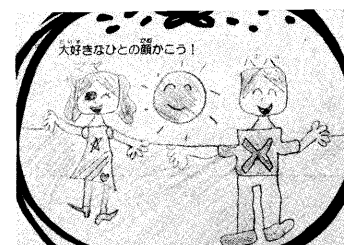
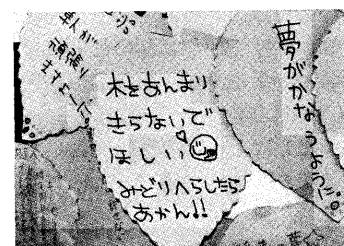
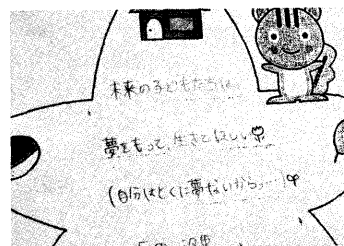
子どもの声を集めることで、大人からの視点だけではなく、子ども自身の意見、意志を知り、そこから子どもたちの状況を分析し、子どもの権利条例作り等に活かしていくために取り組んでいきました。

子どもたちの意志や気持ちを表現するために、4つのテーマ「夢、今言いたいこと、未来の子どもたちへ、自由」を決め、各地域の学校、幼稚園、保育園、学童保育、地域の団体等へ働きかけていきました。具体的な方法として①子どものリレーメッセージノート②子どもの森（はっぱ

の形の紙にメッセージを書く）③何でもメール（携帯を使い写メールとメッセージを送ってもらう）④オレンジリボンツリー（三重県主催：子ども虐待防止推進事業）を提案していきました。

はじめは子どもの声を集める意義よりも、集めることが先行し、なかなか動きになりませんでした。「うちの学校は人権のサークルでこの取り組みを利用させてもらおう」と言ってもらった学校の先生の言葉に力を得て、今までに関係を作っていた学校や、人権のことを取り組んでいる団体などに働きかけていくうちに少しずつ広がってきました。

結果的に桑名地域から熊野地域まで97団体の働きかけによって、三重県内約6,800人の子どもたちの声を集めることができました。また、県主催である子ども虐待防止のオレンジリボンの普及啓発事業を子どもの声を集めることと重ねることで県内26団体が取り組むことができました。これらの声を分析し今後の各自治体での子どもの権利条例づくりに反映させていきたいと思っています。



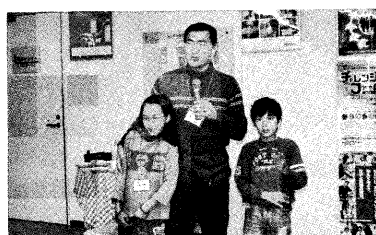
当日の様子から



オープニング講演「みんなで知ろう！子どもの権利条例」（喜多明人）



交流会 実行委員長のあいさつ



交流会 グループごとに自己紹介



里親シンポジウム「里親制度の概要」
県子ども家庭室副室長村田さん



エンディングで三重ピース

地域会議報告

鈴鹿地域会議

■構成メンバー

鈴鹿市教育委員会人権教育課（井上、鈴木）、
鈴鹿市人権教育センター（蘭田、市川）、こ
どもサポート鈴鹿（西村、嶋）、21 世紀の子
育てを考える会・鈴鹿（福本）

■開催日程と内容

地域会議

第1回6月19日・第2回7月23日

第3回8月18日・第4回9月24日

第5回9月26日・第6回10月11日

第7回11月21日

鈴鹿市には、現在 55 カ国約 1 万人の
外国人が暮らしている。その子どもたち
の多くは、学校生活や進路の問題につ
いて様々な悩みを抱え、将来への展望を持
ちににくい状況に置かれている。

地域会議では、そのような外国にルー
ツのある子どもたちの現状について共通
理解を図り、彼らが子どもの権利条約を
学ぶことの重要性や思いを出し合いつな
がっていける機会の必要性について話し
合った。

本年度は、昨年度までの鈴鹿市教育
委員会人権教育課の取り組みを今回の
フォーラムの意義や目的と重ね合わせ、

飯野高校・神戸高校定時制・人権政策課・
NPO 法人こどもサポート鈴鹿、NPO 法
人 21 世紀の子育てを考える会鈴鹿と連
携し、外国にルーツを持つ子どもたちが
子どもの権利条約について学んだり、日
常生活の中で感じてきた自分の思いを出
し合いつながっていける場を設けようと
取り組みを進めた。

◎交流会

①外国にルーツを持つ子どもの交流会

「みんななかま」

（8月23日 三重県立神戸高校定時制
にて）

参加者

高校生 3・中学生 14・過年度生 2

○互いに知り合うことを目的に、学校生
活のことや将来のことについて高校生が
中心となり出し合う機会をもった。中学
生から高校生に高校生活についての質問
もたくさんあった。

②外国人生徒・保護者向け

進路ガイダンス

（9月7日 鈴鹿市人権教育センター
にて）

参加者

高校生 6・中学生 17・過年度生 2

○第一部の学校紹介や進路相談会の後、

第二部で交流会を設けた。はじめに子ど
もの権利条約について話を聞き、自分が
特に大切だと思う権利について、その
理由も含めてそれぞれの考えを出し合っ
た。高校生も自らの生い立ちや体験も交
え、自分の思いを中学生に語っていた。

③子どもの権利条約フォーラム in2008

みえ 子どもの広場企画

いろいろな国の子どもの交流会

「みんなアミーゴ」

（11月24日 アスト津にて）

参加者

高校生 6・中学生 1・過年度生 4

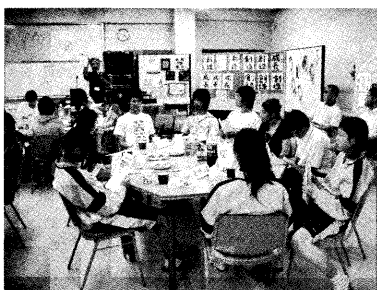
○前回まで交流会の核となった高校生
が、さらに他地域の子もたちと交流を
深めたいとフォーラムの「子どもの広場」
に参画した。

今回は、外国にルーツを持つ子どもだ
けではなく、日本の子どもたちを含めた
いろいろな国の子どもの交流会とした。

松阪地区からの外国人高校生をはじめ、
長野・豊田などの小学生たちも参加
し、ゲームやサイコロトークなどを行い、
とてもにぎやかな交流会となった。交流
会終了後、松阪地区の高校生と交流する
時間も持つことができた。

◎交流会

①外国にルーツを持つ子どもの交流会



◎交流会

②外国人生徒・保護者向け進路ガイダンス



◎交流会

③いろいろな国の子どもの交流会



津地域会議

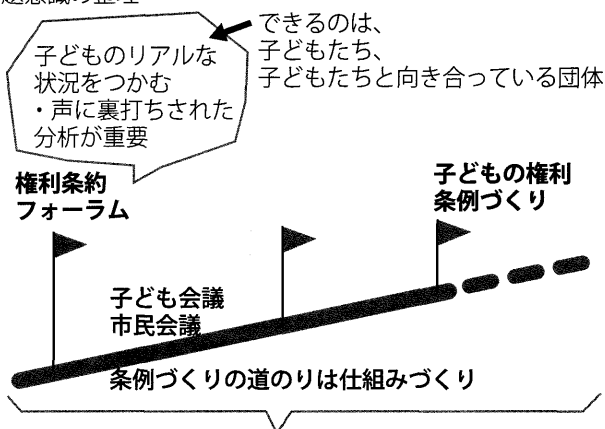
■構成メンバー

三重シュレ (千々岩)、ハツ山小学校 (増田)、子どもの権利条約ネットワーク (柳本)、ありんこ工房 (大窪)、市こども総合支援室 (家木、浅生、前田)、市人権課 (中西)、市人権教育課 (森、外岡)、育生地区民生児童委員協議会 (福井)、三重県子ども NPO サポートセンター・チャイルドライン 24 (田部、竹村)、津子ども NPO センター (飯田、谷口、平澤、山下、中橋)、一般 (杉本)、ユース (林、青木) ※ 1 回以上出席した方を掲載

■開催日程と内容

- 第 1 回 7 月 1 日 … 地域会議の立ち上げ、条例づくりに向けての思いの共有
- 第 2 回 7 月 31 日 … 津地域のフォーラムに向けての取り組み状況の共有
- 第 3 回 8 月 29 日 … 地域会議の開催意義、活動の視点の共有
- 第 4 回 11 月 10 日 … フォーラム後の地域会議活動の発展について共有
- 第 5 回 12 月 12 日 … 地域会議のまとめ。今後の取り組みについて共有

問題意識の整理



〈共有事項〉

- 1 津地域会議の開催意義⇒津地域の活動を津市の条例づくりにつなげていく
 - 2 今後 取り組むこと
- 津地域会議の成果をもとに、条例づくりの市民実行委員会を改めて立ち上げる。そして、以下の事項などについて具体的に取り組む。
- ①津の子どもたちの姿をつかむ。(フォーラムの声の分析等から)

- ②子どもの権利について、正しく理解する機会を持つ。(子ども、大人、参画団体等によって権利の認識が違うことを知り、共有できる認識を持つ)
- ③学校等の現場との関わりを強く持ちながら取り組む。
- 子どもたちの参画について、子ども会議の開催、呼びかけ方法、テーマ(「権利」ではなく、例えば「居場所づくり」)などについて考える。

松阪地域会議

■構成メンバー

松阪市こども未来課 (尼子、山口)、松阪市教育委員会人権まなび課 (田上)、松阪市子ども支援研究センター (米倉)、松阪市社会福祉協議会 (長井)、くれっしえんど (落合)、松阪市学童保育連絡協議会 (中井、鈴木)、(特)松阪子ども NPO センター (釜谷、大門、塩谷、小林、中小原、西川)

■開催日程と内容

- 第 1 回 8 月 21 日
- 第 2 回 9 月 24 日
- 第 3 回 10 月 21 日

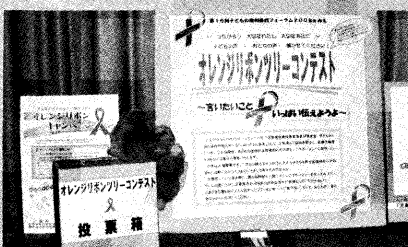
第 1 回の会議はこの会を立ち上げるに至った経過を説明し、これからの展望を話しました。各自が活動していく中で見えてきた子どもたちの現状のことなど話し合う中で、周りの大人の話になり改めて、地域で考えていくが大切だと言うことを確認しました。

第 2 回の会議では自己紹介をしながら、自分が関わっていることから見えてくる子どもの姿などを出し合いました。この会議から参加者も増えて、いろいろな現場から興味深い子どもたちの現状の話を聞く事ができ、共有し合う事ができまし

た。「第 16 回子どもの権利条約フォーラム」への参加も呼びかけました。

第 3 回の会議では、「子どもの権利条約フォーラム」の取り組みや、子どもたちから集めたメッセージについて、この声をどのように活かして発信していくのか等を話し合いました。松阪地域の子どもの声をたくさん集め分析し、子どもの権利条例づくりにいかしていきたいという話をしました。

オレンジリボンツリー 展示とコンテスト



コンテスト (投票)



展示



表彰式

参画した子どもの声

■オープニングバンド

- M パーカッション love
- Y 低音 love
- K Yes we can.
- A 早苗さん love. ファイ。

■スタンプラリーに ちょうせんしよう

○小学生 23 人

うけつけだったのに同じグループに人がいなかったのうけつけができませんでした。だしもののようにしていたけど、いっしょにあそんでいる人もいました。ダンボールであそんだりゴムでっぽうをもってあそんでいたひともしました。おきゃくさんがいっぱいきて、まあよかったと思いました。さいごにかみぶきであそびました。めいろはできたけど、こわれたりしました。ケンカはあったにはありました。ダンボールをもってかえってしまいました。はしりまわっていた人もいました。

■小学生による小学生のための ほめ合うワークショップ

○さいとうしゅんすけ、かわいたくみ、堂上あすか、ふじおかかおり

じかんどおりに、ワークショップは終わりました。自分がひまだったらしいので、はしりまわっていた。一番よくしゃべりました。こしがいたかったのでやりわりはしたけれどずーとすわっていた。

【おきゃくさんのかんそう】

★となりの人をほめたり体のはたらきをかながえたりしました。(ちくごけい7歳)
★となりの人をほめたり体のはたらきをかながえたりしました。ふざけていた人もいたけれど楽しかったです。(ちくごなみ10歳)

★きょうは、ちっちゃんとほめあいをしました。しかいの人がおもしろかったです。にぎやかでたのしかったです。(もり

した)

★みんなえがおとか、たのしいところがいい。(いながきひかる)

★みんなでほめあうところがとてもいいと思った。しかいがおもしろかった。(稲垣輝)

★きょうは、つでべんきょうをしたけどつまらんべんきょうでした。ほんとにつまらなかったです。(すすきのみ6歳)

★小学生のためのワークショップでとなりの人のほめ合いがたのしかったです。(すすきすぐる9歳)

■一枚の紙から何羽もつながった 鶴ができる挑戦「桑名の千羽鶴」

○西脇康平 (中学校1年生)

僕は、「桑名の千羽鶴の体験講座」に講師として参加して感じたことは、桑名の千羽鶴は普通の折り紙と比べて見た目がいくつもの鶴が合わさっていて、複雑で難しそうに思われたために、あまり人が集まってくれなかったのかな?ということです。

それでも2人の仲間達と一緒に汗にまみれて奔走した甲斐があったのか、思った以上に多くの人が体験しに来てくれて非常にうれしかったです。

また、うっかり間違えて教えてしまった時もあったけれども多くの人に桑名の千羽鶴を教えているうちに、自分までが楽しみながらやることができ、よかったなと思っています。

○高木晴加 (小学校6年生)

みんなしんけんに取り組んでいました。私たちも、みんなに教えるのがとてもおもしろかったです。他の企画の所も、みんな楽しい企画ばかりで良かったです。また、こういう企画があったら参加したいです。

○片桐由起奈 (小学校5年生)

子どもの権利フォーラム」に行っては

じめに折り紙教室の場所が(せまっ..)って思いました。それから準備をして、チラシをくばりました。チラシをくばるのは走ったりして大変でした。あと、折り紙教室に来た子でまったく理解してくれない子や、左ききの子がいて教えるのがとても大変でした。午前中の教えるのが終わり、お昼ごはんを食べてから、またチラシをくばりました。お昼からは、あまり人が来なくてヒマでした。でも、とても楽しかったです。

■ユースが受ける 大人の相談コーナー

○武藤拓真

この企画を作るにあたって私たちは何度も話し合いをしてきました。少ない時間の中でなかなか案がまとまらず大変な面も多かったのですが、当日参加者の喜ぶ顔をみてこの企画をやってみて本当に良かったと思いました。

○山本裕美

今回、この企画を通して改めてわかったことは人権の大切さや、相手の気持ちに気付く「心」の重要さです。この企画を作り上げるまでには何度も話し合いアドバイスもらいながらどのようにすれば参加者にわかりやすく伝わるか計画を立てました。

当日はボールを言葉にみだてていろいろな投げ方をして相手の受けとめ方を理解しあいました。普段は何気なく言葉を使っていますがこのワークショップによって、これからは相手の立場を一番に考えたいと思えるようになりました。

このごろ起こっている数々の悲しい事件は、気持ちのすれ違いが背景にあるような気がします。たくさんの相手の気持ちをくみ取れるようになればいいと思います。もうすぐ私も大人の仲間入りをしますが、どんなときでも周りの空気が和むような話し方ができたらいいと思



オープニングバンド演奏



エンディングで報告 (子どもの広場)

います。

○葛巻みなみ

私は当日参加できませんでしたが、企画に携わりました。そのなかで、いつも受動的なわたしたちが“ファシリテーターをする”という能動的な立場になり、“1から自分たちで考える”ということでき、不安を感じながらも楽しくすることができました。また、能動的になることでなにか違うものを感じることができ、いい経験になりました。

■ユースによるエンパワメント・ワークショップ～気持ちを表現するワークショップ～

○伊藤由理

私は小学生10名程で「気持ち」について考えました。私は今まで「気持ち」と言われると「うれしい」「たのしい」「嫌だ」「こわい」などの単語が浮かんでいました。子どもたちが木に貼ってくれた気持ちを表す言葉の中には「パパ大好き」などの文章で書いてあるものがありました。私は「文章も気持ちを表す言葉なんだ」と子どもたちに気づかされました。

当日準備をしていくにつれて、参加者が来てくれるか、どんな気持ちが出るか、逆に全然気持ちが出てこなかったり、子どもたちに「わかんない」などと言われたらどうしようと、思ったりして、私は期待と不安でいっぱいでした。でも、当日参加者はたくさん来てくれて、たくさんさんの気持ちができて、すばらしい「気持ちの木」を仕上げることができました。私たちはこのワークショップを通して、①いろんな気持ちがあること、②どんな気持ちも大切だということを伝えられたらいいなあと、思っていたのですが、最後のまとめで子どもたちからそのような感想が出てきたので、すごくうれしかったです。

私は今までワークショップに参加した

ことはあっても、自分たちで考え進んでいくことはありませんでした。この体験は1つ1つが大変貴重なものばかりでした。相手の気持ち、自分の気持ちなど一人一人の気持ちの大切さと今回学んだことを忘れずに生きていきます。

○島田愛弓

私は今回初めてファシリテーターという立場に立って、小学生以上の子どもたちを対象にしたワークショップをしました。

いつもは受け身側にいる私が発信側ということで、最初は不安や戸惑いもありましたが、何度も話し合いを重ね、行動に移していくうちに、不安や戸惑いが楽しみへと変わっていききました。

当日、子どもたちはとても素直にたくさんさんの気持ちを発表してくれました。私たちが予測もできなかった意見もたくさん出たりして子供の発想力に感心しました。最後に子どもたちに「今日はどうだった？」と聞くと即答で「楽しかった～」と言ってもらったのが一番嬉しかったです。

今回の企画を通して、どのようにしたら子どもたちにうまく伝わるかななどのファシリテーターとしての工夫や、私自身普段あまり考えることの少ない“気持ち”について考える良い機会になったと思っています。

これからたくさんのことに挑戦して発信して行けたらいいなと思っています。

■一緒に話そう大切なわたし大切なあなた

○井上ななえ、浅井ともか、大畑こうき、中井さおり

今回の企画に参加して、たくさん感じるがありました。同年代で地域も違う人たちと自分たちの周りにある『幸せ』について話す場を企画しました。

その中で、たくさんの人たちに集まっていただし、それぞれの幸せについて話しました。人によって全然幸せに思うことが違ったり、同じことで共感したりなど、たくさんの幸せが聞けました。

幸せを共感することや、共感してもらうことも幸せだと思えました。地域によって、考え方や方言が違ったりして新鮮に感じました。ファシリテーターをするのは難しく、はじめは不安がありましたが、最終的に時間がオーバーするまで話せて安心しました。人のつながり、友だちの輪が増えたことがとても嬉しかった。こんな経験をもっとたくさんしたいと思いました。

初めてあう人たちと、子どもたちだけで深い話ができて、とてもよい経験ができました。

■ユース企画「伝えようあなたの気持ち～伝えるってむずかしいよね～」

○杉山優子、鈴木敬介、田中智之、塚沢亮、中谷紀宏、林史子

■至った経緯：

現在の社会においてアサーティブ（自分の要求や意見を、相手の権利を侵害することなく、誠実に率直に対等に表現すること）が必要だと思いアサーティブを多くの人に知ってもらおうと企画しました。

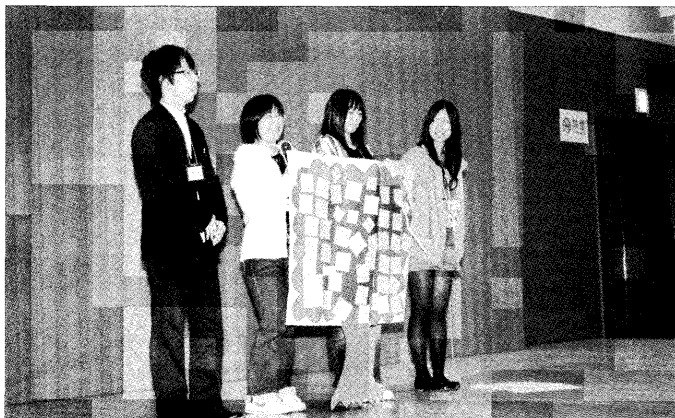
■分科会の様子：

午前寸劇を踏まえてアサーティブの説明をしました。思ったよりも参加者の方から多くの意見を頂いて話すことがなくなりそうになりびっくりしました。午後は恋愛、家族、学校、フリーと年齢性別関係なく分かれて集まり話し合いをしました。そこで、自分とは違う立場の方の話を聞いたら相違があったりして、「そうやったんかあ～」って気付きを得ている方もいました。皆多くのものを持ち帰ってもらえたんじゃないかと思っています。

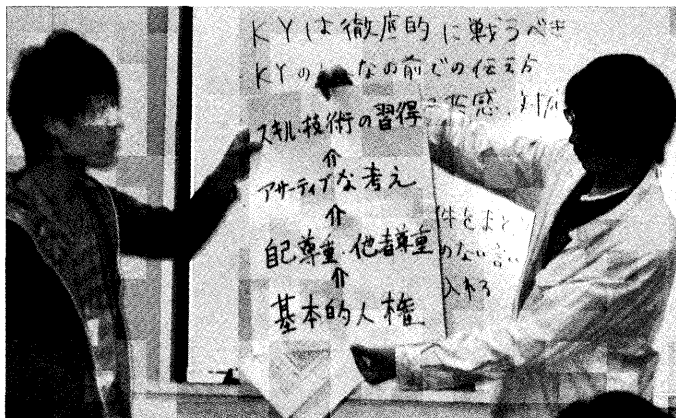
■やってどうだったか：

達成感が非常にありました。アサーティブが何のために必要なのか、どうして今アサーティブなのかを何時間もかけて議論してきたので参加していただいた皆さんからの反響がとても楽しかったです。

ユース6人で行ったことに意味があったんじゃないかと思っています。



エンディングで報告（気持ちを表現するワークショップ）



伝えようあなたの気持ち～伝えるってむずかしいよね～

参画した子どもの声

■子どもサミット

○中川大夢

僕は、実はサミットに参加するのがちょっと嫌でした。(笑) お母さんにいきなり連れて行かれてやらされている感じだったんです。しかし、会議を重ねていくうちに、どんどん自分から参加して、自分の情報を発信していきたいと思い始めました。自分から発信していきたい、サミットに参加したいと思ったのは、なんと言っても、美味しい手作りのご飯があったからこそ。会議に行くのが楽しみになり、ありのままの自分を発信できたのだと思います。そしてなんと言ってもサミットメンバーと浜田先生のおかげだという事！サミットのメンバーには、とてもいい話を聞かせてもらい、自分にプラスになる事ばかりで、とてもためになりました。

サミット当日は、最年少と言う事もあり、話しはめちゃくちゃで自分でも何を話しているのやら正直わけがわかりませんでした。舞台上に座っているだけ。初めてあんな大きな舞台上に上がってとても緊張したけれど、とてもいい経験が出来たなあとと思っています。もっと人の前で話す経験をつんで、しっかり話せるようになりたいと思いました。

最後に、僕のめちゃくちゃな話を聞いてくださった皆さん、ありがとうございました。またこういう機会があったら参加してたくさん情報を発信していきたいと思います。サミットメンバーの皆さん、とてもいい話を聞かせてくれてありがとうございました。また、どこかであつたらよろしく。浜田先生、いろんな話、いろんな国の子どものことを教えて頂きありがとうございました。

○竹内直人

参加しようかどうか、悩みに悩んだ子どもサミットは大成成功だったと思います。僕自身が言いたい事を言え、皆の言いたいことも聞けて、僕にとっては勉強になることばかりでした。

喜多先生の話のあとで自信もなく、逃げ出したい衝動で一杯でした。「今の気持ち」と浜田先生に聞かれて、迷う事無く逃げ出したという会場に笑いが起きて、不安の気持ちが少し落ち着きました。多分、僕らパネラーが言いたいことを言えたのも会場の雰囲気良かったからだと思います。事前の打ち合わせでパネラー四人は共通認識を持って、言いたいことを言おう、と思っていたのではないだろうか。少なくとも僕はそう思っていました。

僕の話した「勘違い」の話は僕の予想に反して、会場に受け入れられました。そもそも、こんな話をしてもいいのだろうか、と思いつつ前日に制作したカンペ。教職員や大人を敵に回すかもしれないとも、いい言いが言葉足らずでそれこそ勘違いされたいとも思いました。僕の話が反感を買わなかったのはフォローしてくれた浜田先生のおかげだと思います。

終わってみると、もっと言いたいことがいくつも出てきたし、大人の意見も聞きたいとも思いました。これからも続くだろう子どもの権利条約フォーラムの中で、もっともっと子どもからの発信を大人に受信してもらいたくなりました。僕はどのような形であれ、これからも一人のユースとしてありのままの自分を包み隠さず発信していこうと思いました。そして、僕が子どもの発信を受け入れられる大人になろうと思いました。

○中谷紀宏

私は同和問題とそれに対しての両親との関わりのお話をしました。私の話を聞いた人が、少しでも同和問題や自分の親子関係を見つめるきっかけになれば嬉しいと思いました。正直、パネラーとして参加する事を躊躇った時期もありました。人前で自分のカミングアウトをすることで、後で軽蔑されるのでは？差別されるのでは？と考えたからです。しかし、

それは妄想でした。話終えた後、本当に多くの人から『感動した。』などの嬉しい声をいただきました。中でも、『自分は外国人だけど、ブラジルに生まれたことを誇りにもてるように、中谷さんのように頑張ります。話を聞いて勇気をもらいました。』と言う言葉をもらったのは印象的でした。今回の子どもサミットで、全国には自分と同じように熱い気持ちを持った仲間が大勢いることに勇気をもらいました。私は来年、大学を卒業し、新しい世界に旅立ちますが、これからも自分という人間を堂々と誇りをもって生き続けて行こうと、改めて決意しました。

私は、人と人の繋がりの中で、肩書きや階級・年齢なんかで、人を判断したくないと思っています。人を権力で押えつけたり、肩書きでみてる大人には、自分の心を開こうとは思わない。子どもサミットのパネラーの仲間は、ありのままの私を受け止めてくれた。真剣に話し合い、笑い合い、泣き合った仲間。だからこそ、私はこれからもこんな仲間を増やしていきたいし、誰かを支える人でありたい。

○浅井朋香

初めは、大勢の人前で何かを伝えるなんて自分には、無理だなあと考えていました。不安も一杯でしたが、本番は近づくと心に心配や不安は、なくなっていきました。それは、サミットと一緒にしてきた皆の存在があったからだと思っています。そして本番を迎えてドキドキはしましたが同時にワクワクもしました。今まででは考えられない感情でした。おかげさまで本番も大成功ですごく充実した2日間でした。

フォーラムを終えて、また普通の生活に戻ったわけですが、私の中に安心感、自信、心のゆとりが出来ました。あと県外の仲間もできました。今は、元気で毎日を過ごしています。それも総て皆様のおかげだと思っています。本当にありがとうございます。

サミットを始める前も終わった後も、私が皆に伝えたいのは「ありがとう」なんです。また、皆さんにお会い出来る日を楽しみにしています。それまで私のことを忘れないで下さいね。そして会ったときには「久しぶり」って声をかけて下さい。皆さんに会えた事、お話出来た事、本当に嬉しく思っています。ありがとうございました。



子どもサミット

実行委員会構成団体紹介

■桑名

エンパワメントみえ

人は誰でも生まれながらにして、その人ならではの素晴らしい力を持っています。たとえば、自分にふりかかってきた困難な問題を解決したり、疲れ傷ついた自分を癒していく力など。そんな力が自分の中にあることに気づき、発揮できるような支援をする活動をしています。

留守番 TEL&FAX0594-21-7884

■桑名

CAPみえ

子どもがあらゆる暴力（いじめ・誘拐・虐待・性暴力など）から自分で自分の心とからだを守る暴力防止プログラム。このCAPプログラムを子どもと大人に伝える活動をしています。CAPでは子ども達が人権意識を持つことで暴力にあわないため、また暴力にあった時の問題解決力を高めると考えています。

鈴鹿市柳町 1161-19

TEL&FAX059-384-8717

■桑名

(特)くわな子どもネット

子どもが豊かな子ども時代を送ることによりたくましく生きる力を身につけ、さらには子どもを取り巻く環境を整えることにより誰もが生きやすいまちづくりをめざし、子育て・子育て支援事業、子どもの生活・社会体験事業、子どもの社会参画事業、文化・芸術体験事業を行っています。具体的には、乳幼児と親対象の講座、託児、緊急サポート、チャイルドライン24の実施、「子ども料理探検隊」「キッズキッチン」「10代のボランティア講座」などを実施しています。

<http://www1.odn.ne.jp/~kuwanakodomonet>

桑名市東方1412-1

TEL&FAX0594-21-0501

■四日市

子育て広場：ドロップin

子ども達ののびやかで豊かな「子ども時代」を実現するために、子どもが安心して健やかに育つ地域社会づくりを目的として活動しています。世代を越えてほっとできる場、親子で遊ぶ場、親子で生の舞台を観て感じる場、小学生の体験の場などの活動を通して大人も子どもとともに育ちあう場をつくっています。

http://www.geocities.jp/smile_dropin

四日市市富田1丁目8-11

TEL&FAX059-363-3728

■四日市

四日市まんなか子ども劇場

私たちは、子どもたちが、心身ともに豊かに成長するために、生の舞台鑑賞や、デイキャンプやこどもまつりなど、様々

な体験事業を実施しています。子どもをまんなかで育ち合い、つながりあうために、四日市西町に「みんなの居場所きらり」を開所しました。午前中はマンションに住む小さな子を持つ親子が遊びにやってきます。午後からは学童保育の子ども達が元気に帰ってきて1日中にぎやかです。

*開局：月～金10:00～17:00（土・日曜閉局）

<http://www4.cty-net.ne.jp/~mannaka>

四日市市西町 15-16

TEL&FAX059-351-6670

■四日市

NPO 法人体験ひろば☆こどもスペース四日市

6年前に、4世代の居場所となる家を子どもの体験として建設しました。そして子どもの体験、子育て支援、居場所事業を展開しています。居場所は日、月、祝日以外夜9時まで開いています。

<http://www4.cty-net.ne.jp/~space/>

四日市市波木町 2040-2

TEL&FAX059-321-0883

■鈴鹿

鈴鹿市教育委員会人権教育課

鈴鹿市においては、2003年（平成15年）に「鈴鹿市人権教育基本方針」を策定し、子どもの人権を人権に関する重要課題と位置づけ、全市民的な取り組みを行っています。特に、その推進にあたっては、①子どもの人権を大切に教育を進める。②いじめや不登校の解決に向けた取り組みを進める。③家庭や地域との協働子育てに取り組む。を重点方針として、具体的な取り組みを進めています。

<http://www.city.suzuka.lg.jp/~kyoiku/>

jinkenkyoiku@city.suzuka.lg.jp

TEL059-382-9030

FAX059-383-7878

■鈴鹿

鈴鹿市教育委員会人権教育センター

鈴鹿市人権教育センターでは、子どもの権利条約に基づき、しょうがいのある子どもや外国籍の子どもなど、さまざまな背景を持つ子どもたちの居場所を作り、創作活動や体験活動、人権劇づくり、集団遊びなど、子どもたちが主体の活動を行っています。活動を通して、仲間とつながることの喜びを感じながら、共に生きるなかまとして、お互いを認め合う関係づくりをめざしています。

<http://www.city.suzuka.lg.jp/~kyoiku/area/index03.html>

jinkenkyoiku@city.suzuka.lg.jp

TEL059-384-7411

FAX059-384-7412

■鈴鹿

(特)21世紀の子育てを考える会。鈴鹿（空飛ぶスイミー）

子育て真っ最中の母親が中心となり設立。今年、設立5年目を迎えます。子どもの成長にあわせて、母親の視点に立った子育て講演会やイベントを企画、実施。「地域で支える鈴鹿の子育て」をキーワードに、さまざまな団体と連携し、活動しています。

<http://www.munieru.com/swimmy/>

TEL090-1415-3749

■鈴鹿

(特)こどもサポート鈴鹿

子ども達が自由で心豊かな「子ども時代」を過ごしてほしいと願い、文化芸術体験や自然・表現体験など提供しています。また、ファミリーサポートセンターやつどいの広場事業を通して子どもが安心して安全に育つ地域社会づくりのための子育て・子育て支援を行っています。

<http://www4.famille.ne.jp/~kodomosz/>

鈴鹿市桜島町 6丁目20-3

TEL&FAX059-383-1322

■津

津市教育委員会事務局人権教育課

子ども達が自分の大切さとともに、他の人の大切さをも実感できる環境づくりをすすめるため、当課では、園・学校での人権学習の支援や、PTAの人権研修会等でエンパワメントやコミュニケーションをテーマにしたワークショップを行っています。

<http://www.info.city.tsu.mie.jp/modules/jinkenkyoikuka>

229-3253@city.tsu.lg.jp

TEL059-229-3253

■津

津市市民部人権課

平成18年1月に10市町村が合併し、同年9月「人権が尊重される津市をつくる条例」を制定しました。翌年実施した「人権問題に関する市民意識調査」から、子どもを取り巻く現状の厳しさが改めて浮き彫りになりました。そして、20年7月には「津市人権施策基本方針」を策定し、「子どもの人権」を重要な施策のひとつと位置づけました。今後、子どもの「最善の利益」を確保する為、積極的な人権施策を推進していきます。

<http://www.info.city.tsu.mie.jp/>

229-3165@city.tsu.lg.jp

TEL059-229-3165

FAX059-229-3366

■津

津市健康福祉部こども総合支援室

平成20年4月に新しく設置された津市のこども総合支援室は、子どもの成長に応じて抱くさまざまな懸念やニーズに対して、多角的に途切れなく支援をしていくことが必要であるという認識に立ち、児童虐待の対応、発達支援など子育て支援についての第一義的な相談窓口として、また、関係課の調整を行うとともに、外部の専門機関等との連携の窓口となり総合的に支援の調整を行っています。このほか、広場事業等の子育て支援施策も行っています。

<http://www.info.city.tsu.mie.jp/>
229-3284@city.tsu.lg.jp
TEL059-229-3284
FAX059-229-3334

■津

(特)三重にフリースクールを作る会 フリースクール三重シュレ

5年前に当事者の親が設立した県内初のフリースクール三重シュレは、市民、行政、三重県遊技業協同組合様を始め、民間団体から応援していただいています。みなさま、本当にありがとうございます。三重シュレは、お互いを認める合う子どもと大人たちによって運営する安心できる居場所・子ども主体の学びの場です。ぜひ、これからも私たちの活動を応援してください。

<http://www.mienoko.com/>
津市広明町328 津ビル1階
TEL059-213-1115

■津

ありんこ工房

ありんこ工房は津市の福祉ゾーンといわれる城山にあります。傷害のある娘のために立ち上げた作業所です。子育てから共に生きることのすばらしさや育ち合うことの大切さを知りました。雲出幼稚園との交流は10年になります。「ありんこさんや」と声をかけてもらえるようになりました。人権フェスティバルでは実行委員をして11回目になります。傷害のある人が住みやすい地域はこころのバリアフリーです。そんな地域を目指して頑張っています。

■津

高田短期大学人間介護福祉学科

高田短期大学人では、人間介護福祉学科や子ども学科において、子ども、老人、障害児・者の生活を守り発達を保障することを目指し、人材養成に取り組んでいます。子どもの権利条約の内容を学んでも、それを現場で実践できなくては意味がありません。みんなの力でこの条約を育てていきましょう。また、国連障害者の権利条約が2006年12月に採択されました。今後、日本政府が早期に条約に批

准するよう働きかけていきましょう。

<http://www.takada-jc.ac.jp/index.html>

津市一身田豊野195
TEL059-232-2310
FAX059-232-6317

■津

津市学童保育連絡協議会

共働き家庭や母子・父子家庭の小学生の子どもたちの毎日の放課後（学校休業日は一日）の生活を守る施設が学童保育です。子どもたちは、そこを生活を営む場所として学校から「ただいま」と帰ってきます。津市学童保育連絡協議会は、約40年間、22の学童がともに協力し合っ

て、公設民営の学童を保護者と指導員で支えあっています。

<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~Gakudou/>
津市中河原445
敦和小学校内学童保育えのき会
TEL059-226-9620

■津

育生地区 民生委員児童委員協議会

育生地区民生委員児童委員協議会は行政と連携を取りながら、社会福祉の増進のため活動をしています。地域では、育生地区社会福祉協議会の一員として三つの部会を持っています。①高齢者福祉部会：高齢者を対象に「いきいき健康サロン」を計画実施。②障害者福祉部会：本年度は「車イス体験ふれあいウォークラリー大会」に参加研修③児童福祉部会：育生地区子育て支援ネットワークづくり事業。「人形劇と七夕まつり」を計画実施。広報「民生委員だより」を発行し地域の福祉向上への啓蒙。

■津

(特)津子どもNPOセンター

子どもの権利条約を基に、子どもが安全で安心して豊かに育つ地域づくりをめざして、子育て・子育て支援の事業活動を展開しています。地域の子育てを応援する「ファミリーサポート・緊急サポート」・乳幼児親子が気軽に利用できる「つどいの広場」・18歳までの子ども専用電話「チャイルドライン24」の実施組織としての活動などを通して子育てをみんなで支え合う地域社会づくりに取り組んでいます。

<http://www.za.ztv.ne.jp/kodomo/>
津市大里窪田町2709-1
TEL059-231-0012
FAX059-231-0013

■松阪

松阪市教育委員会

松阪市教育委員会では、人権教育を推進するために、市民講演会や市民講座を開講し、また中学校区人権フォーラムを実施しています。さらに、外国人児童生徒教育の充実を図るために、母語スタッフやボランティアの協力を得ながら、初期日本語適応教室や母語教室を開校しています。

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/manabi/>
TEL0598-53-4398
FAX0598-26-8816

■松阪

松阪市こども未来課

松阪市こども未来課は、平成18年4月に児童福祉担当課として福祉課から独立して3年目になります。保育園係とこども係2係で主に保育園、子育て支援センター、児童相談、児童手当、放課後児童クラブ、母子福祉など子どもに関わる幅広い業務を担っています。次代を担う子どもたちの将来が明るい社会となるよう願いながら、日々、子育て家庭の支援に取り組んでいます。

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/kod.div@city.matsusaka.mie.jp>
TEL0598-53-4081
FAX0598-26-9113

■松阪

社会福祉法人 松阪市社会福祉協議会

みんなで考え、話し合い、協力して心ふれあう「福祉のまちづくり」を目指します。主な事業○地域福祉活動（地域福祉活動計画推進事業、地区福祉会活動、ボランティアセンター運営、貸付事業、各種相談事業、赤い羽根共同募金運動の協力、共同募金配分金事業等々）○地域福祉権利擁護事業○介護サービス（居宅介護支援、訪問介護、通所介護事業等々）○障害者自立支援事業○その他受託運営事業等々。

<http://www.matsusakawel.com>
松阪市殿町1360-16 松阪市福祉会館内
TEL0598-21-1487
FAX0598-23-3359

■松阪

くれっしえんど

『障がいがあっても一人の人間として尊重され誰もがあたりまえに生きていける地域づくり』を目指しています。会の趣旨に賛同する人は、年齢や障がいの有無・違いに関係なく誰でも入会できます。主な活動は春・夏休みの障がい児親子レクリエーション、就学・進学・学校生活などの話し合いの場、福祉や防災などについての勉強会、障がい児者が地域で集える場づくり、その他親睦の行事など。

松阪市久保町757-6
TEL&FAX0598-29-1653

■松阪

スペシャルオリンピックス日本・三重

スペシャルオリンピックス（SO）とは、ダウン症、自閉症、発達障害など、知的発達障害のある人たちに、費常的に様々なスポーツトレーニングと、その成果の発表の場である競技会を、年間を通じて提供し、自立と社会参加を応援する国際的なスポーツ組織です。SOは非営利活動で、運営はボランティアと善意の寄付によっておこなわれています。コーチとして彼らと触れあうことは、私たちボランティアにとってもとても素晴らしい体験になります。ほんとかな？と思うあなた、ぜひ、一度、プログラムを見にきてください！

<http://www.sonmie.org/>

info@sonmie.org

TEL 080-3623-8228

FAX 059-356-1776

■松阪

松阪子どもNPOセンター

子どもの生活体験、鑑賞体験、社会参画の機会の拡充を図り、かつ子どもの全人的な成長に寄与することを目的として様々な事業をしています。主なものとしてはファミリーサポートセンター事業・「チャイルドライン24」実施組織・高学年キャンプ・トーク合宿・しつけ教室等です。

<http://www.mknpo.jp/>

松阪市下村町 1115

TEL&FAX0598-20-1511

■伊勢

(特)三重みなみ子どもネットワーク

「すべての子どもが自分に誇りと自信を持ち、自ら考え責任をもって行動できるよう、活動を通してサポートする」をミッションに、子育て支援事業では、子どもの主体を大切にした支援事業、ファミリーサポート事業では、伊勢市から受託している「いせファミリー・サポート・センター」運営を通して地域づくりを、文化芸術体験事業では、食文化や自然体験を通して、命を実感し自己肯定感を高める事業を行っています。

<http://www.amigo2.ne.jp/~kodomo21/>

伊勢市岩瀬2-3-13

TEL0596-28-5692

FAX0596-28-5679

■熊野

(特)子どもステーションくまの

乳幼児から青少年まで、子ども達が自ら考え、主体的に行動できる力を発揮できて行ける様、あらゆる方向からサポートしていく事の手立てとして、ネットワークを広げ、地域を巻き込んだ自然体験事業・文化芸術体験事業・子育て支援広場事業・保育サポート事業・学童保育事業

等を実施し、一人一人が自尊感情や自己肯定感を養い、子どもが生き易い地域社会を築いて行く事を目指しています。

kinan@zb.ztv.ne.jp

熊野市久生屋町163-2

TEL0597-89-5633

FAX0597-89-5643

■三重県

三重県健康福祉部こども局 こども家庭室 / こども未来室

三重県こども局では、県民の皆さんをはじめ、団体や企業など多様な主体との連携・協働により、すべての子どもの育ちと子育て家庭を見守り、ささえることのできる「こどもや子育て家庭にやさしい地域づくり」をめざし、子ども関連施策を総合的、一体的に進めています。

<http://www.pref.mie.jp/D1KODOMO/>

こども家庭室児童福祉グループ

kodomok@pref.mie.jp

TEL059-224-2883

FAX059-224-2270

こども未来室次世代育成グループ

kodomom@pref.mie.jp

TEL059-224-2269

FAX059-224-2270

■三重県

(特) 三重県子ども NPO サポートセンター

子どもの権利を保障する基盤整備及び、子どもの社会参画の場をひろげ、子どもが安全で安心して全人的に育つ社会づくりを目的として活動しています。また、行政・企業・NPOなど子どもに関する団体との協働を推進し、公共サービスの担い手となり、子どもに関する諸団体のサポート、ネットワークづくりを目的とし、地域づくりを進めています。みえ緊急サポートネットワーク事業。「チャイルドライン24」実施組織の事務局を担当。

<http://mie-kodomo-npo.org/>

津市大里窪田町 2709-1

TEL059-232-0270

FAX059-232-0271

■三重県

「チャイルドライン24」実施組織

「チャイルドライン24」は、子どもの心を受け止める18才までの子ども専用電話です。月曜日～土曜日午後4時～9時までの毎日実施をしています。子どもの権利条約を基本に、電話をかける子ども達の主体を大切に、子どものエンパワメントをサポートします。地域の多くのボランティアでつくるチャイルドライン24を通して、子どもが安全で安心して豊かに育つ地域社会づくりを目指しています。

<http://childline24.net/>

津市大里窪田町 2709-1

TEL&FAX 059-211-0024

■全国

日本アドラー心理学会所属 アドラー心理学学習グループ

私たちは日本アドラー心理学会の会員としてアドラー心理学を学んでいます。1870年オーストリアに生まれたアルフレッド・アドラーという心理学者は、戦争のない人々が問題を話し合いで解決する社会の実現を願いました。そのためにはこれからの社会をつくる子どもたちへの「育児」や「教育」がもっとも重要だと考えました。その流れを汲んだ勇気づけの育児についての考え方や、育児プログラム『パセージ』をみなさんにお伝えしたいと思っています。

adoler.sawada@nifty.com

川西市東多田 3-23-1-103

TEL072-792-8027

■全国

子どもの権利条約 ネットワーク（NCRC）

「子どもの権利条約ネットワーク」は、子どもの意見表明・参加が尊重される社会をめざし、条約の実施・普及をすすめるために1991年に設立されました。イベント、セミナーなどの開催、ニュースレターの発行、ホームページなどにより、条約の新しい情報を発信しています。1993年からNCRCの呼びかけで、フォーラムが開催されています。

<http://www.ncrc.jp/>

東京都目黒区緑が丘 2-6-1

TEL03-3724-5650

日比野 一子	鈴木 康仁	丸山 康郎	松井 香月	刀根 京子	渡邊 幸美
高木 文子	熊谷 真紀子	外岡 博明	川合 牧子	福山 桂	西野 三佳
乾 茂子	長嶋 高之	外岡 祥子	中根 恵	松本 直紀	保田 勝巳
江 京子	篠原 政也	中西 ナツ代	宮川 世津子	池田 元彦	鈴木 智
黒田 幸美	堀之内 宏行	永合 哲也	松林 亜季	川瀬 智子	稲葉 崇
角井 多万紀	河合 龍哉	上島 均	岩松 和子	新田 浩隆	岡 泰子
高草 環	田中 育子	勝田 直樹	山口 知子	尼子 宗成	湯浅 真子
堀内 千春	井上 浩	山田 香	水谷 和代	山口 哲生	大井 真史
伊藤 明美	水井 建次	山川 雅巳	栗真保育園	中井 弘明	小野 美治
水谷 清子	大村 ミリアン	尾崎 守男	関根 眞澄	長崎 光弘	芝田 登美子
小川 満美	林 かおり	内田 実	田辺 美恵子	増原 千栄子	松田 千恵
市川 千鶴子	谷口 浩二	鈴木 真実	鈴木 育子	真伏 洋美	福井 敏人
池田 光子	山中 勝	中里 洋子	池山 泰子	中西 純子	宮山 義親
桜井 真弓	伊藤 徳人	森川 賢	松村さつ子	堀田 一忠	田中 泰道
永井 礼子	長野 克之	伊東 直人	住田 普子	今西 隆文	田中 郁子
坂本 聖子	舘 隆克	山川 稔也	岩崎 悦子	藤田 みどり	村上 富美子
油田 千鳥	竹嶋 昇	堀山 祐治	奥田 裕子	中里 好江	加藤 和浩
富田 美佐江	別保 春和	高田 明裕	高野保育園	村林 彩子	松見 隆子
谷口 久美子	永戸 栄治	渡辺 早苗	職員一同	船谷 近代	服部 秀二
立松 小百合	小林 卓	松谷 富美子	藤田 信隆	坂 裕子	稲垣 茂
福田 佐代美	安井 尚志	森 公子	倉田 秀人	杉本 雅子	石井 千博
竹尾 淳子	桐生 秀子	森田 正美	浅野 哲郎	久世 久美子	中尾 裕美
大橋 美代子	西村 治美	永井 嘉久	千々岩 研	大川 淳子	大橋 吉之
宮原 あつみ	上原 雅美	滝 加寿代	千草 篤磨	北村 清江	田邊 慎介
吉田 香	服部 かつ美	谷口 善彦	向井 智志	寺島 美穂子	池山 智之
水谷 孝子	玉置 深雪	落合 正史	北村 行史	村田 秀美	富山 誠一
上田 真紀子	嶋 かをり	中西 信徳	落合 郁夫	谷 由佳理	山崎 誠
斉藤 典子	田城 朋子	松井 博保	西川 笑子	古川 直子	田嶋 芳和
吉田 喜美子	佐々木 典夫	橋本 喜久男	藤井 由美子	吉田 康子	伊藤 隆弘
中西 和美	前田 稔	浅生 伸之	平松 比呂子	落合 泰子	中西 孝朗
平井 律子	原 正雄	藪岸 加寿子	井ノ口 千代子	清川 直樹	脇田 愉司
多田 雅代	谷口 静也	青木 清美	市川 節子	釜谷 恵子	松月 昭二
豊田 達子	村田 宗秀	前田 宏樹	片山 令子	大門 公子	村木 顕太郎
土井 靖子	三浦 弘光	倉田 靖大	藤井 裕子	中小原 一代	和田 正子
中筋 貴子	藤牧 和弘	田口 芳裕	山口 久美子	西川 幸子	小島 潤一
鶴 友子	今井 和代	小海途 由美子	木村 あけみ	小林 小夜子	板崎 寿一
岩井 真理	小野 耕司	近澤 ゆき子	石川 正浩	塩谷 明美	西川 隆義
伊藤 富貴子	竹川 哲之	藤田 初代	杉田 由美	加藤 智之	松崎 由枝
上野 佳子	稲垣 篤	大西 那央子	谷口 美子	長野 宏紀	中山 恵里子
高井 満里子	中澤 利美	岡本 あ希美	中橋 千枝美	大門 彩子	高山 大
森本 雅夫	中橋 芳子	曾野 寛	山下 恵子	西川 陽子	山田 喜久
梅本 秀明	山中 祥子	眞田 まり子	飯田 美知子	奥村 剛	田中 みちよ
廣田 隆延	石倉 久美子	家木 恭子	河合 卓子	奥村 幸恵	山本 佳子
樋口 照明	西山 ひろみ	松岡 日出洋	多喜 美奈子	奥村 健太	黒子 忠久
西 繁	田中 玲	辻井 良子	長野 春実	奥村 勇氣	安井 雅臣
杉嶋 克之	豊住 和美	別府 敏	野口 寛子	日下部 文子	宮川 一夫
東浦 重人	川瀬 雅子	村田 幸穂	西井 智子	鬼藤 千代子	渡辺 一政
木村 元彦	柘植 久	南条 弥生	平澤 田代	池田 千恵	鈴木 由美子
藤本 寧夫	高尾 明	関山 淳	浅原 直美	岩井 圭子	藤野 久美子
山本 信一	中谷 初男	寺邊 博和	山口 伴尚	倉木 紀子	林 ゆかり
宮村 喜代美	飯柴 雅巳	竹内 正巳	生杉 哲寛	秋山 則子	伊藤 和俊
北川 薫	米山 浩之	小竹 悦子	田畑 和明	堀木 稔生	村田 善幸
川北 浩司	油田 秀紀	清泉愛育園	長山 富巳子	太田 栄子	青木 浩子
穴沢 真由美	熊崎 司	落合 鋭子	杉本 丈夫	西口 裕	柴田 浩
鈴木 佳子	中村 光司	牛場 まさ子	北畑 維久子	南川 正隆	山本 和美
楠田 謙治	伊勢野 久好	片岡 茂美	米山 暢子	庄司 正	川北 裕美
園田 雅司	秋田 由美子	島 肖子	竹林 文平	渡辺 重和	前山 和子
杉本 康弘	和田 知行	樋口 滋子	奥井 昇	速水 恒夫	坂口 彰
市川 泰	西川 賢洋	新家 三枝子	園部 功	森西 宏巳	藤本 利江子
白杵 伸子	西本 和史	前川 美恵子	小西 勢津子	稲葉 敦央	中山 智子
鈴木 英文	森 直樹	堂西 和枝	村林 千秋	加藤 康彦	黒田 和博
中野 あけみ	長野 恵実	坂本 岳史	斎藤 文可	小倉	杉田 聡子

西尾 真由子
鈴木 知美
大河内 陽介
安藤 敏
井澤 淑子
鈴木 早苗
西城 昭二
崎地 幸一
山田 晶
神田 正光
寺井 謙二
古川 誠
村上 謙二
西場 久人
板羽 聖治
藤山 泰雅
永田 克行
美容室インディゴ
杉本 悦子
川喜田 ひろ美
福井 きわ子
竹村 浩
田部 眞樹子

徳島アドラー心理
学那賀みちの会
アドラー心理学
学習会「ルネキタ」
アドラー心理学
事例検討会
アドラー心理学
育児プログラム
リーダー会
和歌山アドラー
心理学研究会
アドラー心理学
学習グループ
なでしこの会
日本アドラー心
理学 2008 年総
会有志
アドラー Koi

賛同会員・団体 ※全国から協賛いただいた方々

●賛同会員

赤池 悦子
天野 隆
好光 紀
小川 和寧
藤井 幹夫
土井 由三
中村 たづみ
佐々木 光明
藤井 浩子

●賛同団体

千葉県子ども人権条例を実現する会
特定非営利活動法人国際子ども権利
センター（シーライツ）大阪事務所
子どもの人権連
特定非営利活動法人くまもと子どもの
人権テーブル

後援（行政機関）

三重県、	伊勢市教育委員会、
三重県教育委員会、	鳥羽市、
津市教育委員会、	鳥羽市教育委員会、
桑名市、	志摩市、
桑名市教育委員会、	志摩市教育委員会、
いなべ市、	南伊勢町、
いなべ市教育委員会、	南伊勢町教育委員
東員町、	会、
東員町教育委員会、	度会町、
木曽岬町、	度会町教育委員会、
木曽岬町教育委員会、	玉城町、
朝日町、	玉城町教育委員会、
朝日町教育委員会、	大紀町、
川越町、	大紀町教育委員会、
川越町教育委員会、	紀北町、
四日市市、	紀北町教育委員会、
四日市市教育委員会、	尾鷲市、
菰野町、	尾鷲市教育委員会、
菰野町教育委員会、	熊野市、
鈴鹿市、	熊野市教育委員会、
鈴鹿市教育委員会、	御浜町、
亀山市、	御浜町教育委員会、
亀山市教育委員会、	紀宝町、
伊賀市、	紀宝町教育委員会
伊賀市教育委員会、	
名張市、	
名張市教育委員会、	
松阪市、	
松阪市教育委員会、	
多気町、	
多気町教育委員会、	
大台町、	
大台町教育委員会、	
明和町、	
明和町教育委員会、	
伊勢市、	

広告協賛一覧

CAPみえ
Fine Link
小林建設株式会社
子どもと本をまん中に「Can」
菰野町「おもちゃ診療所」
明実学院
（株）シーオーエー三重支社
（特）21世紀の子育てを考える会、鈴鹿
鈴鹿地域会議
社団法人 三重県人権県教育研究協議会
財団法人 反差別・人権研究所みえ
津市反差別青少年友の会
津市人権・同和教育研究協議会
三重シューレ
三重県遊技業協同組合
高田短期大学
株式会社三重生産市場
津医療生活協同組合 津生協病院
株式会社阪本事務機
デコールおおたに
フォレストテクニカル
特定非営利活動法人みえ親子・人間関係研究所
柳本つとむ
炉ばた料理 味ふく
三重県自閉症協会
答礼人形「ミス三重」の里帰りを實現させる会・有志
社会福祉法人聖マッテヤ子供の家サポーターズ
インターナショナル ルイ企画
（有）アイデアルストーリーズ
夢のバリアフリーミュージカル人情集団 An - Pon - Tan
障害者支援施設 聖マッテヤ心豊苑
スペシャルオリンピックス日本・三重
（有）アスカプランニング
NPO 法人シーズネットワーク
（株）林技建工業
東山歯科医院
医療法人 山口歯科医院
株式会社せこ住研
株式会社 三重銀行
さくら総合法律事務所

出版社協賛一覧

岩波書店
株式会社 学文社
合同出版
株式会社 三省堂 法律書出版部
株式会社 信山社
株式会社日本評論社
株式会社 ポプラ社
エイデル研究所

主催：第16回子どもの権利条約2008 in みえ実行委員会

共催：津市

呼びかけ団体：子どもの権利条約ネットワーク

■実行委員会構成団体（順不同）

エンパワメントみえ／CAP みえ／（特）くわな子どもネット／子育て広場：ドロップ in／四日市まんなか子ども劇場／NPO 法人体験ひろば☆こどもスペース四日市／鈴鹿市教育委員会人権教育課／鈴鹿市教育委員会人権教育センター／（特）21世紀の子育てを考える会 鈴鹿／（特）こどもサポート鈴鹿／津市教育委員会事務局人権教育課／津市市民部人権課／津市健康福祉部こども総合支援室／（特）三重にフリースクールを作る会／ありんこ工房／高田短期大学人間介護福祉学科／津市学童保育連絡協議会／育生地区民生委員児童委員協議会／（特）津子どもNPOセンター／松阪市教育委員会／松阪市こども未来課／（社）松阪市社会福祉協議会／くれっしゅんど／スペシャルオリンピックス日本・三重／（特）松阪子どもNPOセンター／（特）三重みなみ子どもネットワーク／（特）子どもステーションくまの／三重県健康福祉部こども局／（特）三重県子どもNPOサポートセンター／「チャイルドライン24」実施組織／日本アドラー心理学会所属アドラー心理学学習グループ／子どもの権利条約ネットワーク

■実行委員会事務局

〒514-0125 三重県津市大里窪田町 2709-1

「チャイルドライン24」実施組織内

TEL 059-211-0024

2009 年 発行 第16回子どもの権利条約2008 in みえ実行委員会